

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

# 内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
shin 赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

## 災害時要配慮者支援に 悩み次々と

### 内海・山海地区防災連絡会

7月23日、内海・山海防災連絡会が開かれ、内田議員は他の内海の議員とともに会議に参加しました。各地区の防災の取組について情報交換が行われ、内海・山海17区の避難方法についての問題点・課題が出されました。高齢者や障害者に対して、特に要配慮者の対応や避難場所、避難方法についての各区長さんなどから具体的な悩みや課題が出され、話し合われました。町内全体に共通する課題でもあります。出された内容から一部、紹介します。



特別養護老人ホーム (大地の丘)

### 個別避難計画の策定を

災害対策基本法の改正(令和3年5月)で「避難行動要支援者」ごとに「個別避難計画」の作成をおおむね5年をめぐりに市町村の努力義務としました。また、作成に必要な「個人情報」の利用及び個別避難計画の活用に関する平常時と災害発生時における避難支援等関係者への情報提供について、個人情報保護条例等との関係を整理の上、規定を新設しています。

### 災害時要配慮者数(希望者)

#### 南知多全体で197名

内海・山海地区の防災連絡会事務局の町からの情報調査では、町全体で見守り支援を希望している町民はわずかに197人です。内海・山海地区は99人で、17区のうち希望0人という区が5区ありました。町全体としても把握は進んでいないことが分かりました。

また、町職員による75歳以上の見守り対象者は、町全体で431人、ひとり暮らしの65歳以上の高齢者の人数は、

1427人います。高齢化率約40%の南知多町の災害時要配慮者支援の具体的な対策の強化が求められています。

会議では、「リヤカーで運ぶ」「車で運ぶ」「車イスで運ぶ」「人がいない日中に誰が助けるのか」等の意見が出されました。実際の地震等の場面では、計画通りいかないことが予想されます。「誰が、誰を、どこに、どのように避難させるのか」を地元の防災会議と連携しながら、行政の責任として複数計画対応も含めて、個別計画をまず策定することが急がれます。

### 第一次避難場が坂道で不安定

各区長からの避難に向けての具体的な報告は、それぞれの区の実情を踏まえて切実なものでした。



山海地区のある区長さんからは「避難場が2カ所あるが、山中腹の道路で、平坦でなく、高齢化率55%の避難場としては、幅員も狭く長時間の避難にはむかないので困っている。少ない人数の区費で運営している

ため、とても区費のみの整備では負担が大きい、行政で予算を確保してもらいたい」との切実な訴えがありました。

### 外国人への対応は?

外国人が多い地区では「ホテルの従業員やコロナもあり、交流も不十分で心配である。外国人にも分かる避難場所やアプリが必要」の意見があり、QRコードでの誘導の検討も報告されました。また、ここでも避難場所が急な場所であり、高齢者に対応しにくい。ため、竹藪を開発することも考えていることや、道路を舗装して車でいけるようにして、早い者が優先でつめること等の考えも報告されました。

### 夜中の地震対策等々多くの要望

「夜中に地震が起きたらどう対応すればいいか」「もっと分かりやすい避難看板の設置してほしい」「盗難が心配される、どうしたらいいのか」等様々な意見や要望が出ました。

災害時の安否確認の一方法である「無事ですカード」の利用については

### (川柳コーナー)

信じれば票もくれるし金も出る
旧統一協会と国会議員との関係が次々と明らかになっている。協力すれば、お金も出し、票も集めてくれる。それが反社会的な組織でもすがりつく自民党議員たち、その陰で莫大な被害が続いていたのに、そんな議員は即刻辞職すべきです。

### 総合的な個別避難計画の作成と支援者の情報共有を

要配慮者の避難計画は、自治体職員の業務負担の軽減や現状に即した避難支援等につながる必要があります。計画作成の業務には、本人の状況等をよく把握し、信頼関係も期待できる福祉専門職の参画が極めて重要とす。

また、避難を支援する個人とともに、自主防災組織や自治会等の団体との連携も必要です。平時から自主防災組織や消防団、民生委員等が避難支援等関係者と避難行動要支援者名簿・個別避難計画情報を共有することが必要とす。

要配慮者が指定福祉避難所へ、社会福祉施設等から在宅へ移る時に、避難行動要支援者名簿に記載し、避難支援に切れ目が生じないように留意する必要があります。安心・安全な防災計画を立てていきますように。

